

【地域のスポーツ環境整備の推進】

～身近なスポーツ環境整備の充実～

1. 事業要旨

国民の誰もが身近にスポーツに親しむことのできる生涯スポーツ社会の実現に向け、日常的にスポーツをする場の整備を推進するなど、地域のスポーツ環境の整備を推進する。

2. 事業内容

(878,000千円)

(1) 地域のスポーツ施設の整備

567,000千円

総合型地域スポーツクラブの活動拠点となるなど、地域住民のスポーツ活動のための最も身近な施設である地域の体育館、運動場等のスポーツ施設の整備を促進する。

(342,470千円)

(2) 総合型地域スポーツクラブの育成支援

212,306千円

クラブマネジャーの養成講習会の開催、クラブ育成アドバイザーによる巡回・指導や総合型地域スポーツクラブに関する情報提供などの取組を実施することにより、地域密着型のスポーツの場である総合型地域スポーツクラブの全国展開を一層推進する。

(3) 広域スポーツセンター機能強化事業【新規】

66,135千円

地域のスポーツ活動全般及び総合型地域スポーツクラブの創設や運営、活動を効率的に支援するために必要な広域スポーツセンターに対して、その持つべき機能を強化する取組を推進する。今後、広域スポーツセンターを通じて、①広域市町村圏におけるトップレベル競技者の育成に関する支援、②地域のスポーツ活動に対するスポーツ科学・医学・情報に関する支援及び③地域スポーツ指導者情報のデータベース化・提供を行う。(18地域)【都道府県教育委員会等へ委託】

～体力向上のための取組の推進～

1. 事業要旨

学校・家庭・地域において、子どもの体力向上を目指した取組を推進し、子どもの体力を昭和60年頃の水準まで回復することを目指す。

2. 事業内容

(9,054千円)

(1) 子どもの体力向上啓発事業【拡充】

266,620千円

小学校等に著名スポーツ選手を派遣し、講話や実技指導を通じて、体を動かすことの楽しさを伝えること等により、子どもたちが主体的にスポーツに親しむ態度や習慣を身に付けさせ、子どもの体力向上を図る。

- | | |
|---|--------------|
| | (318,675千円) |
| (2) 子どもの体力向上に向けた調査研究 | 140,155千円 |
| | (302,508千円) |
| ① 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 | 90,088千円 |
| 全国的な子どもの体力の状況を把握し、学校における体育・健康に関する指導に役立てるため、小学校第5学年、中学校第2学年の20%の児童生徒を対象に、新体力テスト及び生活習慣、運動習慣等に関する調査を実施する。 | |
| | (16,167千円) |
| ② 子どもの発達段階に応じた体力向上プログラムの普及啓発 | 33,091千円 |
| 身体を操作する能力を身に付け、高めるためのプログラムを普及啓発するための資料を作成し、このプログラムを効果的に指導するための実技講習会を実施する。 | |
| ③ 幼児期の運動指針の作成【新規】 | 16,976千円 |
| 幼児期の体力向上の基礎を培うための実践活動への取組と、幼児の運動習慣等との関連を詳細に分析するとともに、運動習慣の確立や基礎的な動きの獲得に向けた幼児期の運動指針及び具体的な運動例を作成し、全国に発信する。 | |

総合型地域スポーツクラブの育成支援

(前年度予算額 342,470千円)
22年度予算額(案) 212,306千円

地域の社会問題、スポーツの現状

- 少子・高齢化社会の進展
- 地域コミュニティの弱まり (都市化の進展)
- 国民の運動不足 (週1回以上のスポーツ実施率 45.3%)
- 子どもの体力低下 (S60年と比べて依然として低い水準)

新たな提言等

- 地域密着型の拠点づくりを推進 (民主党INDEX2009)
- 子どもが身体を動かす機会の確保 (教育振興基本計画)
- 小規模自治体におけるクラブ育成支援

地域におけるスポーツ振興

心と体の調和の取れた人間形成

誰でも、いつでも、いつまでも
スポーツができる環境づくり

国民の健康寿命の延伸

総合型地域スポーツクラブの創設 (多様目・多世代・多志向)

地域コミュニティがかつて有し
ていた機能の再構築

総合型地域スポーツクラブの育成支援

総合型地域スポーツクラブ育成推進委員会等の開催

- 総合型地域スポーツクラブ育成委員会の開催
- 創設準備中クラブの担当者と先進クラブ関係者との連携強化を図るクラブミートインク等の開催

総合型地域スポーツクラブ育成情報提供事業の実施

- 各地域の取組事例 (クラブ設立・運営方法、クラブマネージャー・実技指導者の育成等) 等クラブづくりに役立つ情報の提供

総合型地域スポーツクラブ育成アドバイザー等の養成・派遣

- クラブ育成アドバイザー (クラブ会員の勧誘方法やスポーツ指導者の確保、スポーツ活動事業の実施等、クラブの育成に関する高度なノウハウを持つ者) による育成対象クラブへの巡回相談・指導
- クラブ育成アドバイザー・クラブマネージャーの資質向上のため
の研修会の開催

民間スポーツ団体により実施

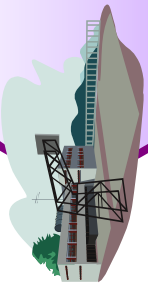


広域スポーツセンター機能強化事業

(新規)
22年度予算額(案) 66,135千円

地域におけるトップレベル競技者の育成支援

- 総合型クラブを中心とした競技水準の向上
- 企業スポーツチーム、トップスポーツクラブとの連携



シンボル
スポーツ

タレント発掘

人材交流

トップ指導者

広域スポーツセンターに不足している機能

- 広域市町村におけるトップレベル競技者の育成支援
- 地域スポーツ活動に関するスポーツ科学・医学・情報支援
- 地域スポーツ指導者のデータベース化・提供

スポーツ科学・医学・情報支援

- 医学サポート
スポーツ医学専門機関と連携



指導者情報のデータベース化

- 日体協・日レク等と連携

総合型クラブ、部活動外部指導者等へ活用



広域スポーツセンターの機能強化

子どもの体力向上啓発事業

(前年度予算額 9,054千円)
22年度予算額(案) 266,620千円

① スポーツ振興基本計画

- ① 子ども自らが積極的に体を動かそうとする意欲を起こすことができるような取組が必要。
- ② 保護者をはじめとした国民全体が、子どもの体力の重要性について正しい認識を持つよう、国民の意識の一層の喚起を行うことが必要。



② 本事業における取組

- ① 著名スポーツ選手を活用した子どもへの直接的な啓発活動の実施。
 - ② スポーツ振興法に基づく体育の日の中央記念行事として、保護者をはじめとした国民に対する子どもの体力向上の重要性についての理解を促すためのプログラムの実施。
- これらの取組により、子どもの体力向上を図る。



① スポーツ選手活用体力向上事業の全国展開

平成22年度予算額(案) 247,192千円

小学校等に著名スポーツ選手等の指導チームを派遣し、講話や実技指導を行うことにより、体を動かすことの楽しさや正しい生活習慣を身につけることの大切さ、スポーツの素晴らしさなどを子どもたちに伝え、子どもたちが主体的にスポーツに親しむ態度や習慣を身に付けさせる。



【実施箇所数：940箇所】



② 「体育の日」中央記念行事の開催

平成22年度予算額(案) 12,780千円

スポーツ振興法に基づく体育の日の中央記念行事として、親子で参加するスポーツ体験教室や新体力テスト等のプログラムを行うことにより、保護者をはじめとした国民に、子どもの体力低下の問題や体力の重要性、外遊びやスポーツの重要性について理解を促し、意識の喚起を図る。



【実施箇所数：1箇所】



その他：実行委員会経費 6,648千円

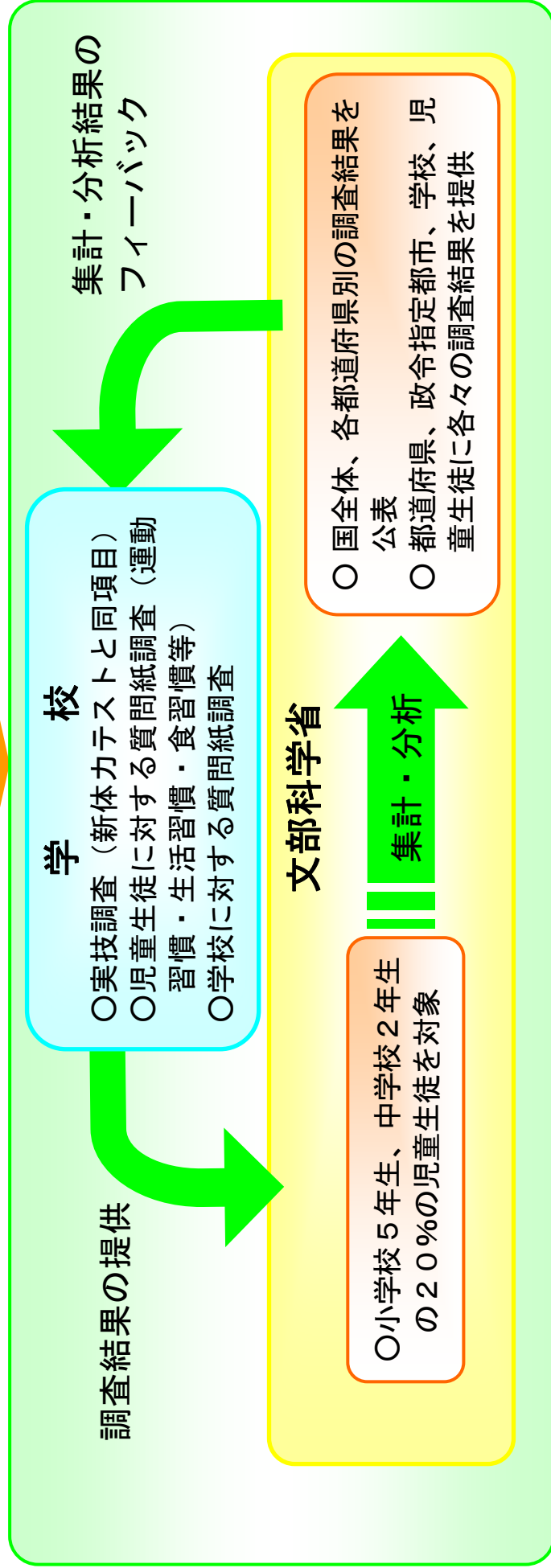
全国体力・運動能力、運動習慣等調査

(前年度予算額 302,508千円)
22年度予算額(案) 90,088千円

目的

- ◆ 国、教育委員会、学校が子どもの体力の状況等について詳細に把握・分析し、施策の検証、改善に活用する。
- ◆ 体力と運動習慣、生活習慣、食習慣等の関係を分析し、学校等における指導の改善に役立てる。

実施内容



成果の活用

国が全国的な状況を把握・分析し、施策の成果と課題の検証、改善への活用

各教育委員会による子どもものの体力向上施策への活用

学校における体育・健康に関する指導などの改善への活用

子どもの発達段階に応じた体力向上プログラムの普及啓発

(前年度予算額 16,167千円)
22年度予算額(案) 33,091千円

現状

- 骨折をする子どもの増加
- 顔や頭のケガの増加
 - 転んだときに手をつけない
 - ボールをよけられず頭に当たる
- 肥満傾向の子どもの増加



課題

子どもが外遊びやスポーツをする機会の減少

- 身体を操作する能力の低下*1
- 運動の基礎となる身体的能力の低下*2

遊びや身体活動を通じた多様な動きの体験



運動の基礎となる身体的能力*2の獲得

身体を操作する能力*1の獲得

体を動かして楽しい

運動・スポーツができて楽しい

自ら進んで体を動かそうとする動機向上

子どもの体力の向上

20年度、21年度

- **実態調査**
子どもたちの身体を操作する能力について実態把握
- **調査研究**
発達段階に応じた身体を操作する能力について調査・分析
- **運動プログラムの提示**
上記の調査、研究の成果を基に発達段階に応じた身体を操作する能力が身につく運動プログラムの提示

調査研究の実施

*1 身体を操作する能力：敏捷性、柔軟性、バランス能力等
*2 運動の基礎となる身体的能力：走る、跳ぶ、投げる等

22年度

普及啓発

- 啓発資料の作成
- 指導者講習会の開催

◇ 学校における体育指導等での活用

◇ 地域における子どもの体力向上に向けた取組での活用



幼児期の運動指針の作成

幼児期に運動に関わることの重要性

幼児期は生涯にわたり、運動やスポーツに親しみ健康的な生活を送るための基礎を培う上で重要な時期

現状

- 真っ直ぐに走ることができない
- 転んでも手がつけられず、顔をケガする
- ボールをよけられず、顔面にあたってしまう。



体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究

- 平成19年度～21年度
- 全国21地域で実施
- 約3,500人の幼児対象
- 各地域で地域特性や課題に応じた実践プログラムの実施
- 運動能力調査、生活実態調査、(幼児、保護者)、運動有能感調査、基礎的な動き評価 などを実施し、プログラムを検証

幼児期の体力向上の基礎を培うための要因

- 生活習慣の向上
- 運動習慣の確立
- 基礎的な動作の獲得
- 基礎的な体力の向上

幼児期の運動習慣・生活習慣・体力の向上を目指したプログラムの蓄積

幼児期の運動指針

- 年齢別身体活動量の目標設定
- 身に付けておくことが望ましい基礎的な動き
- 発育発達段階を考慮した運動習慣・生活習慣の在り方
- 幼児期の運動を安全に行うための留意事項 など

